

炭素繊維。プラ産学官で

東北大など開発へ研究会

東北大学などは28日、炭素繊維強化プラスチック(CFRP)に関する産学官連携の研究会を立ち上げた。CFRPは炭素繊維と樹脂を組み合わせた複合材料。強度と軽さを併せ持ち、燃費改善につながる軽量化に向け自動車や航空機メーカー

で導入が進む。研究会は共同での研究開発や技術課題の解決を通じ、関連産業の育成を目指す。同日、CFRP研究会の設立総会を開いた。東北大の流体科学研究所や宮城県産業技術総合センターのほか、県内企業など約20社が参加した。名

古屋大の石川隆司教授がBMWやレクサスなど自動車へのCFRPの導入状況を紹介。炭素素材加工メーカーのUCHIDA(埼玉県三芳町)の内田敏一社長は、イタリアのランボルギーニとの連携について説明した。研究会の会長を務める

東北大の高木敏行教授は「新素材には事業化への期待と多くの技術課題があるが(関係者が)集まる場がなかった」と意義を強調した。今後は講演会や情報交換会を年2、3

回開くほか、技術相談や会員企業のマッチングなどを行う予定だ。